

地球温暖化対策 - 脱炭素社会の実現に向けて - Vol.1

現在、地球は温暖化しています。地球温暖化は、人間のさまざまな活動により大気中の二酸化炭素などの温室効果ガスが増加していることが原因であると考えられています。温室効果ガスは、石油、石炭などの化石燃料の使用により増加しますが、化石燃料は、発電、商品生産、交通、家庭など日常のさまざまな場面で使用されています。

地球温暖化の影響

地球温暖化は、地球表面の大気や海洋の平均温度が長期的に上昇する現象であり、国内においても異常気象による被害の増加、農作物や生態系への影響などが予測されています。既に世界的にも平均気温の上昇、雪氷の融解、海面水位の上昇が観測されているほか、国内においても平均気温の上昇、暴風、台風などによる被害、農作物や生態系への影響などが観測されています。村内でも平成24年7月九州北部豪雨や平成28年熊本地震直後の6月豪雨により、甚大な被害が出ましたが、これらの豪雨をもたらす気候変動は、地球温暖化の影響がないとは言い切れません。

地球温暖化問題は、その予想される影響の大きさや深刻さから見て、人類の生存基盤に関わる安全保障の問題と認識されており、最も重要な環境問題の一つとなっています。

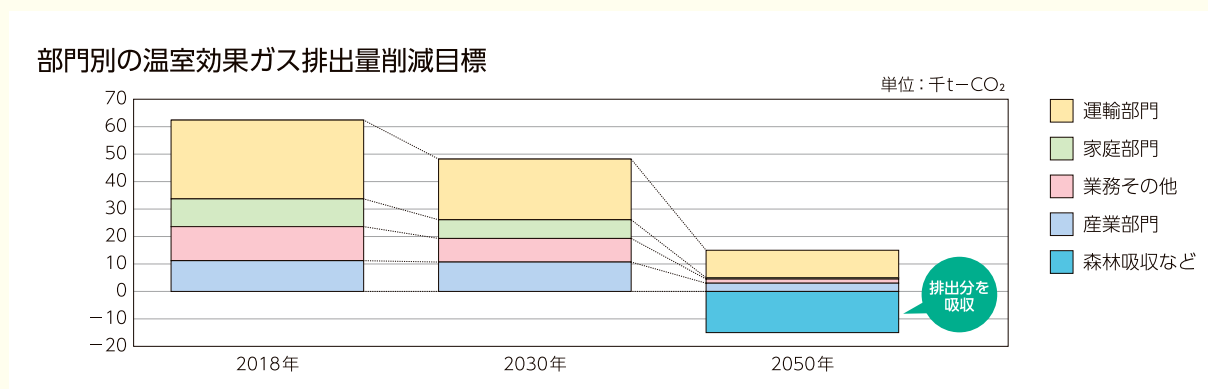
これ以上地球温暖化を進行させないために

今、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させ、地球温暖化を防止することは人類共通の課題とされ、低炭素社会の実現に向けた取組が求められています。

本村は、2020年1月に熊本県の18市町村からなる連携中枢都市圏共同で、2050年「ゼロカーボンシティ」の宣言をおこなっています。また、2022年3月に2050年脱炭素社会の実現を目指して「南阿蘇村地域再エネ導入戦略」を策定しました。

戦略では、2050年度までにゼロカーボンを達成するために、2030年度までに、2013年度に対して二酸化炭素排出量を50%削減させる目標としています。産業部門では省エネルギー設備の導入、家庭部門では省エネ性能の高い機器への買替え、その他の部門では建築物の省エネルギー化が主な対策となっています。これらの省エネ対策を実施して排出量の41%を削減、太陽光発電、地熱発電、水力発電など再エネ発電施設を導入することで9%削減することが示されています。2030年度からは、電力会社から供給される電気の大部分が再エネによる電気に置き換わっていくと期待できることから、現在、灯油、重油、ガソリンなどの化石燃料を使用する機器や設備についても電化を進め、どうしても化石燃料を使用しなければならない部分については、植林などによる炭素の吸収源を作ることにより、2050年度のゼロカーボンを達成することとしています。

※ゼロカーボン：温室効果ガスの排出量から森林などによる吸収等を差し引いて、全体として温室効果ガスの増加をゼロにすること



私たちは、地球温暖化を抑えなければならないこと、そのためには温室効果ガスの排出量を削減する必要がありますことをご理解いただき、自分たちでできることから取り組まれますようお願いいたします。

今後、広報誌や村ホームページで、家庭でできる地球温暖化対策などについて、随時紹介していきます。